



INTERVIEW

福島で、実現する。

あなたが実現したいことは、なんですか？



栄養士

先輩職員インタビュー

「『食』を通じた健康づくりのサポーター」

所属

県北保健福祉事務所 健康福祉部 健康増進課

● これまでの経歴(所属年度)

H29~R 1 南会津病院 診療部栄養管理室
R 2~ 県北保健福祉事務所
健康福祉部 健康増進課

Q. 現在の仕事内容とそのやりがいについて教えてください。

A. 管理栄養士として特定給食施設に対する指導や食環境の整備、食育事業などを担当しています。従来行っていた対面での指導や事業の実施は、新型コロナウイルス感染症の影響で難しいこともありました。オンライン配信で研修会を実施するなど、新たな方法を取り入れながら業務を行っています。

栄養士の勤務先は保健福祉事務所や学校、病院などがあり、それぞれ専門性が異なるため、様々な分野の栄養士として働ける点にやりがいを感じています。

Q. 福島県職員として、実現したいこと、目標としていることは何ですか。

A. 東日本大震災発生時には、栄養や食生活に関する様々な課題が発生しました。例えば、「生命維持の確保」や「食物アレルギーへの対応」、「慢性疾患の重症化予防」などが挙げられます。こうした災害時に起こる栄養や食生活の様々な課題を解決できる力をつけたいと思っています。

併せて、自分の担当する地域の市町村や特定給食施設とも平時から連携し、非常時にも速やかに連携できる体制整備を行っていきたいと考えています。



↑ 栄養士免許証の申請手続きを受理している様子



Q. 仕事をする上で心がけていることは何ですか。

A. 『福島県行政栄養士人材育成ガイドライン』という、栄養士の業務を行う上での指針となるものが定められています。経験年数に応じて到達目標が設定されているため、定期的に振り返り、求められるレベルに到達できているかを確認しながら業務を行うように心がけています。



↑ふくしま“食の基本”推進事業についての打ち合わせの様子

Q. あなたをキーワードで伝えるとしたら、どんな言葉が思い浮かびますか。

A. 「管理栄養士」「地酒」「温泉巡り」「コーヒー」「おいしいもの」

Q. 「管理栄養士」について教えてください。

A. 管理栄養士を目指したきっかけは、美味しいものが好きだから。そんな単純な理由でしたが、様々な視点から「栄養」や「食」について勉強した大学時代はとても充実していました。この資格を選んでよかったと思っています。

Q. 「地酒」について教えてください。

A. 福島県の日本酒は全国的にも注目されていますが、とても美味しいのでわたしも大好きです！最近はお店に出かけて飲む機会はありませんが、新型コロナウイルス感染症が落ち着いたら、県内の酒蔵巡りをしたいと思っています。